

今年



年です。

清正の虎退治

皆さんは、加藤清正という人物をご存じでしょうか。豊臣秀吉の忠臣で、数々の武功が伝わる武将です。

関ヶ原の戦いの後は、慶長16年（1611）に亡くなるまで、初代熊本藩主として、熊本城を築くとともに、城下町や街道の整備、大規模な治水事業などを進め、現在の熊本の基礎を作った人物としても知られています。

さて、この清正には、有名な逸話があります。それは「虎退治」。秀吉に命じられて朝鮮に出兵した際、虎退治の大立ち回りを演じたというものです。江戸時代中期の随筆で、戦国武将などの逸話を集めた『常山紀談』には、「山の麓に構えた清正の陣では、夜に

清正のお墓は鶴岡にある

櫛引地域丸岡地区にある天澤寺。ここに加藤清正の墓碑（県指定史跡）があります。熊本藩主であった清正のお墓が、なぜ鶴岡にあるのでしょうか。

それは清正が亡くなった後の、加藤家の歴史をたどることで見えてきます。寛永9年（1632）、清正の子で熊本54万石の藩主・加藤忠廣は、幕府に改易を言い渡され、庄内藩主・酒井忠勝の預かりとなりました。

改易の理由は諸説ありますが、忠廣は、母・正応院や20人の家臣などとともに丸岡に流され、亡くなるまでの20年余りをそこで過ごすこととなります。

配流が決まった際、忠廣は家臣の生熊九郎助に密命を与えました。それは、熊本の本妙寺に眠る父・清正の遺骨を、ひそかに丸岡に移すというもの。そして、遺骨は秘密裏に茶の湯の水差しつぼの壺に納められ、正応院自ら丸岡に運び、後に、忠廣は自身が住む館の隣にある天澤寺に安置したと伝わっています。

長い月日が流れた昭和24年、天澤寺境内の発掘調査が行われました。すると、境内の五輪塔の下から、人骨と思われるものが付着した壺が見つかりました。考証の結果、その壺は肥前弓野焼の茶の湯の水差しで、清正の骨壺として使われたものと推測されています。

寅年の今年

故郷・熊本を遠く離れた丸岡の地に幽閉され、承応2年（1653）に亡くなった忠廣は、現在、母・正応院とともに市内三光町にある本住寺に眠っています。

虎退治の清正。そして父・清正の遺骨を虎の子のように大切にした忠廣。寅年の今年、加藤家終焉の地・丸岡を訪れて、清正から忠廣につながる歴史ロマンに思いをさせてみてはいかがでしょうか。



▲天澤寺の境内には、虎にゆかりのある清正にちなんで、虎の像があります。特別に地面に置いて撮影させていただきました